

●書学書道史学会

## 会報

第 42 号

令和4年(2022)1月15日発行

編集・発行

書学書道史学会

会報編集委員会

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1  
パレスサイドビル 9F

(株) 毎日学術フォーラム内

TEL (03)6267-4550

FAX (03)6267-4555

MAIL maf-syogaku@mynavi.jp

## 第31回書学書道史学会大会を終えて

笠嶋 忠幸

今年度の大会は、10月31日(日)一日での開催となりました。新型コロナウイルスへの対策を熟慮しまして、オンライン(Zoome利用)による配信形式を臨時で採用いたしました。事前の理事会では、十分に意見交換がなされ、協議を尽くして決定したものです。本大会開催の準備にあたりましては、国内局と事務局とが連携し、これに毎日学術フォーラム様のご支援もいただいて実施にいたるまでの細かな業務を執り行わせていただきましたが、不十分な点多々あったかと思えます。何卒ご容赦ください。

大会開催でもっとも留意しましたのは、安定的な配信を行うことでした。近年の社会状況においては随分とIT化が推進されて、一般化してきたと見る向きもありましようが、その一方では技術面のみならず、通信形態や通信機器自体にも不安定な要素が多いため、本学会では

大事をとっての施策を取らせていただきました。発表者6名の方には、無理なお願いをしましたが、ご理解とご協力を得まして、都内一か所の会場(A.P.東京八重洲)へお集りいただくこととなりました。また司会進行役は、萱のり子先生にお引き受けいただきました。

初めての試みではありましたが、常時、60から70名の皆様にご視聴いただけたようで、各発表では質疑応答まで無事に終えることができました。皆様のご協力の賜物と存じ、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。皆様のご協力のおかげでは、職場および会議のほか研究会等にて、こうしたオンライン配信が促進され、定着してきた諸事情も背景にあったのことかと拝察しております。ただ一方ではIT機器を使用されない会員の皆様も多くいらっしゃり、当該の方々におかれましては、多大なるご不便をおかけいたしましたこと、ここに深くお詫び申し上げる次第です。なお大会の発表内容・研究成果につきましては、今後刊行予定である『書学書道史研究』に掲載されますまで、今しばらくの間お待ちくださいようご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

そろそろ感染症拡大の勢いも落ち着きをみせて参りました。また医療面での対策も充実してきております。来年度は延期となっております盛岡大学での開催を予定し、これより準備を進めて参る所存です。会員の皆様にとって、年に一度の大会へのご参加は、書学書道史の研究を志す者同士が一堂に会し、調査研究の情報交換、意見交換を直におこなうことのできる重要な場でありましよう。今後のコロナ禍平癒を祈念、期待しつつ、来年度大会への皆様のご参加を重ねてお願いいたします。 (国内局長・将来構想委員会小委員会A委員長)

令和2年度会計決算報告書  
(2020年4月1日～2021年3月31日)

	項 目	決 算 額
収入の部	個人会員会費	2,550,000
	団体賛助会費	388,400
	その他の収入	6,441
	損害補償金	9,550,738
	本年度収入 合計	12,495,579
	前年度繰越金	8,298,140
	前年度負債	△10,474,006
	収 入 合 計	10,319,713
支出の部	編 集 局 経 費	758,897
	「学会展望」準備費	220,000
	国 際 局 経 費	0
	国 内 局 経 費	0
	学 術 局 経 費	72,600
	研 究 局 経 費	0
	会 報 編 集 委 経 費	62,370
	ホ ー ム ペ ー ジ 委 託 費	277,750
	会 議 費	32,980
	遠 隔 地 役 員 交 通 費	0
	通 信 費	373,677
	事 務 消 耗 品 備 品 費	137,194
	事 務 委 託 費	822,782
	東洋学・アジア研究連絡協議会 予 備 費	2,000
	予 備 費	0
	本 年 度 経 費 合 計	2,760,250
	次 年 度 繰 越 金	10,566,847
	未 払 金	△3,007,384
	支 出 合 計	10,319,713

令和3年度予算案  
(2021年4月1日～2022年3月31日)

	項 目	予 算 額	
収入の部	個人会員会費	2,500,000	
	団体賛助会費	450,000	
	本年度収入 合計	2,950,000	
	前年度繰越金	10,566,847	
	収 入 合 計	13,516,847	
	支出の部	編 集 局 経 費	700,000
		「学会展望」準備費	100,000
		国 際 局 経 費	300,000
国 内 局 経 費		300,000	
大会（研究発表）開催費		700,000	
学 術 局 経 費		100,000	
研 究 局 経 費		900,000	
会 報 編 集 委 経 費		100,000	
ホ ー ム ペ ー ジ 委 託 費		300,000	
会 議 費		30,000	
選 挙 管 理 委 員 会 費		100,000	
名 簿 作 成 発 行 費		300,000	
通 信 費		30,000	
事 務 消 耗 品 備 品 費		10,000	
事 務 委 託 費		1,000,000	
人 件 費		100,000	
東洋学・アジア研究連絡協議会 予 備 費		2,000	
予 備 費		8,444,847	
本 年 度 経 費 合 計		5,072,000	
次 年 度 繰 越 金		0	
支 出 合 計	13,516,847		

第32回書学書道史学会総会（令和3年度総会）報告

事務局

『会報』第41号（令和3年6月1日発行）の「令和3年度書学書道史学会総会の扱いについて」（事務局報告）に記載の通り、本年度の総会は昨年度とのおなじく代替方法により実施されました。

令和3年度・第2回理事会（令和3年10月30日開催）での協議をふまえ、11月28日付で全会員宛に、「令和3年度総会の代替方法による審議・報告について（依頼）」、「議事次第」ほか、「審議のための書類（資料1-1, 2, 3, 4）」、「資料5」、「報告のための書類（資料6）」、並びに表決のための郵便ハガキが事務局より送付され、12月12日（当日の消印有効）までに届いた返信の3分の2以上が賛成の場合は、審議事項につき承認が得られたものとして扱うこととなりました。

審議事項は(1)「令和2年度会計決算報告、事業活動報告および会計監査報告について」、(2)「令和3年度予算案、事業活動計画案について」、報告事項は(1)「会則第17条の改正について」です。12月中旬に事務局長、両副事務局長、毎日学術フォーラム当学会事務局担当者により、郵便ハガキが整理・確認されました。郵便ハガキの送付総数は440（住所不明者19を含まず）、期限までに届いた郵便ハガキの総数は165（無記名のハガキ2を含む）。集計の結果、(1)については、賛成163、反対0、賛否記載なし2、(2)については、賛成164、反対0、賛否記載なし1となり、(1)の審議事項について、いずれも3分の2以上の賛成が得られました。よって令和3年度書学書道史学会総会の審議事項については承認されました。

以上、「」報告いたします。  
(紙面には代替総会で送付した書類のうち、「資料1-1」(「令和2年度会計決算報告書」、資料4)「令和3年度予算案」を掲げました。)

## 事務局よりお願い

事務局

## ◆第17期役員選出選挙について

本学会の現第16期役員会（理事・監事）は、令和4年3月31日をもって任期（2年）満了となることから、新たに第17期役員選出のために選挙を実施します。詳細については、来月発送する『役員改選選挙の告示と投票』についてにてご案内いたします。会員各位におかれましては、本学会創設以来、守り続けている民主的運営の美風を堅持するためにも、すべての会員による投票をお願いします。

なお、選挙管理委員会については、第16期役員会発足時に理事会で承認された、以下の委員会メンバーによって構成、および実施されることと決定しています。

## 〔選挙管理委員会〕

委員長 小川博章  
委員 下田章平 橋本貴朗 柳田さやか（以上、理事・監事枠より4名）  
亀澤孝幸 野中直之（以上、会員枠より2名）

## ◆会員名簿について

第17期役員選出選挙にあたり、「会員名簿」を発行します。8月・9月には、会員各位に登録データのご確認をお願いいたしましたでしたが、その際はご協力ありがとうございました。選挙関連の発送物とあわせて、来月お届けの予定です。

名簿に関する問合せや情報提供は、本会報一面の事務局（㈱毎日学術フォーラム内Eメール：maf-syogaku@ynavi.jp 担当：松井裕希氏）へお願いします。

## ◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を離れた時（学生証の発給対象でなくなった時）に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、会員変更手続き（「会員変更申込書」の提出）が必要です。とりわけ、今春に学籍を離れる方はご注意ください。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。

なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認」各欄は記入不要です。「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、本会報一面の事務局（㈱毎日学術フォーラム内Eメール：maf-syogaku@ynavi.jp 担当：松井裕希氏）へお願いします。

## 新入会員紹介

事務局

## ◆一般会員

藤本朋美（南九州大学）  
宮本淳子（東京学芸大学）

## ◆学生会員

上野あゆみ（福岡教育大学大学院）  
王娜婷（安田女子大学大学院）  
呉雲峰（京都工芸繊維大学大学院）  
聶子柔（大東文化大学大学院）  
張亜敬（関西大学大学院）  
藤井一嘉（大東文化大学大学院）

※令和3年4月～10月に申請された方

事務局（㈱毎日学術フォーラム内）への電話でのお問い合わせにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための一部テレワーク実施に伴い、後日のご連絡となる場合がございます。

ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

## 各局報告

## ◆国内局

第32回書学書道史学会大会（予定）のお知らせ

来年度の大会は、延期となっておりますが盛岡大学での開催を予定しております。同大学の矢野千載先生にご高配をいただき、研究集会に適した会場もご準備いただいております。日程は、目下のところ10月29日（土）・30日（日）としております。詳細が決まり次第、会報にてお知らせいたします。

（局長 笠嶋忠幸）

## ◆国際局

海外研究者による講演会

令和4年（2022）は、元時代に活躍した趙孟頫の没後700年にあたります。国際局では今年度の事業として、趙孟頫の研究者として著名な、北京故宫博物院の王連起先生と、国立故宫博物院の陳建志先生にご講演をいただける運びとなりました。年度内に、講演の動画を期間限定で公開する予定です。詳細は追って学会のホームページにてお知らせいたします。

書画・典籍・金石資料に関する施設・展覧会案内

中国大陸・台湾・韓国の博物館・美術館で、書画・典籍・金石資料を収蔵する施設および特別展・常設展について、各施設がウェブサイトなどで提供した情報を学会のホームページにてご案内させていただきます（9月28日時点）。下半期も引き続きご案内を予定しておりますので、ご活用ください。

（局長 富田 淳）

## ◆学術局

J-STAGE

昨年10月末刊行の『書学書道史研究』31号所収の最新研究動向紹介、論文、学界展望の計7本について、令和3年度末までにJ-STAGEに連載し、公開時には学会ホームページでお知らせいたします。

東洋学・アジア研究連絡協議会

学会ホームページでお知らせしましたとおり、昨年12月18日に同協議会のシンポジウムがオンライン開催されましたが、令和3年度総会は中止となりました。

WEB「学会名鑑」

日本学術会議事務局からの令和3年度実態調査に回答しました。内容の一部は、今春のWEB「学会名鑑」更新で反映されるとのことです。

国立国会図書館関連

同館からの「学術情報の収集・保存の強化に資する」調査に回答しました。学会名を特定できない形で集計され、同館ホームページの「学協会アンケート」で結果が公開される由です。

なお、この過程で同館未納が判明しました学会誌25号以降の各2冊と、関西館未配架の22〜24号各1冊について、事務局に納本を依頼。また、会報全41号のPDF版は会報編集委員会から納めていただき、PDF版の公開歴のある平成23年の第22回学会大会以降の『大会のしおり』は学術局から納めました。今後は、同館が定期的に収集してくださる由ですが、引き続き対応してまいります。

（局長 森岡 隆）

## ◆研究局

「書学書道史学会研究促進助成金規程」細則の修正について

標記細則（研究助成金の使用制限）の文言を、傍線部のように修正いたします。

第9条の研究助成金の使用制限については、研究計画書にもとづき、研究の遂行に必要な消耗品・物品および書籍（電子書籍を含む）の購入のみに充て、図書を含め高額物品購入の一部に充当してはならない。また、使用期間終了時まで、所定の事項が記載された総額30万円以上の領収書（公印を押捺したもの）を研究局に提出し、30万円に満たない場合は、送金手数料負担のうえ残額を返還しなければならない。

研究促進助成金制度採択課題に関する報告

2019年度採択者（加藤詩乃会員・石永峰会員）の終了報告書に相当する「経費執行報告書（含む領収書）」を受理しました。両会員とも適正に経費（30万円）を執行しております。なお、新型コロナウイルスによる影響のために生じた残額は学会に返還されました。

2020年度採択者はいなかったため、「中間報告書」の提出はありませんでした。



2021年度分の募集において、研究計画書の申請が2件ありました。審査の結果1件が採択されました。

研究代表者：土屋 明美

研究課題名：中国近現代の書法家研究

— 『中華民国三十六年中国美術年鑑』にみえる書法家について—

「2022年度研究促進助成金制度」の申請募集について

本年度も新型コロナウイルスの影響もあり、申請数が少ない状況が続いております。

「2022年度研究促進助成金制度」の募集要項（フォーマット）は、4月上旬に学会ホームページにアップロードする予定です。次年度はふるってご申請ください。

（局長 河内利治）

#### ◆編集局

『書学書道史研究』第31号刊行

学会誌第31号への論文投稿は5件にとどまりました。前年度の大会中止が大きな要因と考えられます。各位には、大会発表の如何にかかわらず、積極的な投稿を期待いたします。今号でも査読に当たられた方々には、丹念にご対応いただきました。この場を借りて御礼申し上げますとともに、最新研究動向紹介をご執筆くださった宮崎洋一諮問委員、学界展望をご執筆くださった柳田さやか監事にも、改めて感謝申し上げます。

（局長 菅野智明）

#### ◆事務局

令和2年度事業・活動報告

4月12日 令和2年度第1回常任理事会（メール会議）

4月23日 令和2年度第1回理事会（メール会議）

5月15日 第39号《会報》発行及び発送

6月1日 「研究促進助成金制度」申請受付（～7日）

6月28日 令和2年度第2回常任理事会（於東京新宿ライナタワー・マイナビルム）

8月17日 令和元年度決算会計監査

9月13日 令和2年度第3回常任理事会（オンライン会議）

10月31日 令和2年度第2回理事会（定例）（オンライン会議）

10月31日 第30号『書学書道史研究』発行及び発送

11月13日 令和2年度総会（書類送付による審議・報告）

12月15日 令和2年度第3回理事会（メール会議）

12月31日 第31号『書学書道史研究』投稿申込締め切り

1月15日 第40号《会報》発行及び発送

2月20日 令和2年度第4回常任理事会（オンライン会議）

3月6日 令和2年度第4回理事会（オンライン会議）

3月31日 第31号『書学書道史研究』投稿原稿締め切り

令和3年度事業・活動計画

4月25日 令和3年度第1回常任理事会（オンライン会議）

5月11日 令和3年度第1回理事会（メール会議）

6月1日 第41号《会報》発行及び発送

6月1日 「研究促進助成金制度」申請受付（～7日）

7月2日 令和2年度決算会計監査

7月4日 令和3年度第2回常任理事会（オンライン会議）

8月2日 令和3年度第3回常任理事会（メール会議）

10月30日 令和3年度第2回理事会（定例）（オンライン会議）

10月31日 令和3年度大会・研究発表（オンライン配信）

10月31日 第31号『書学書道史研究』発行及び発送

11月28日 令和3年度総会（書類送付による審議・報告）

12月31日 第32号『書学書道史研究』投稿申込締め切り

1月15日 第42号《会報》発行及び発送

1月中旬 第16期名簿発行及び発送

1月29日 令和3年度第3回理事会（オンライン会議）

2月上旬 令和3年度臨時総会（書類送付による審議・報告）

2月中旬 第17期役員選挙投票締め切り

2月中旬 第17期役員選挙開票

3月上旬 選挙選出理事による緊急懇談会

3月中旬 臨時理事会

3月31日 第32号『書学書道史研究』投稿原稿締め切り

（以上は執行済み）

（局長 橋本貴朗）

## 「将来構想委員会」原案の作成と審議の経緯

将来構想委員会

### ◆将来構想委員会報告

会報第40号「将来構想委員会（仮称）設置に向けて」（令和3年1月15日発行）において既述しましたように、「将来構想委員会（仮称）ワーキンググループ答申（案）」を理事長に報告いたしました。これを受けて、7月4日の常任理事会において、将来構想委員会としての原案を10月30日の理事会に提示することが決まりました。そこで小委員会A・B・C各委員長とメール会議を開始し、まず各委員長に各小委員会の提案をおまとめいただきました。そして8月1日に各委員長と各提案についての摺り合わせをオンラインで行いました。その上で8月22日に各小委員会からの提案についての意見交換をオンラインで開催いたしました（将来構想委員会委員10名全員出席）。その意見交換の内容を取りまとめますと次のようになります。

#### ○小委員会A「大会実施計画ワーキンググループ」

笠嶋忠幸（委員長）・鍋島稲子・矢野千載

今年度第31回大会と、小委員会Aとしての次年度以降の大会を含む提案に分ける。大会、研究会は、Zoomであれば安全に開催できることを提案に盛り込む。

#### ○小委員会B「研究活動推進ワーキンググループ」

富田淳（委員長）・高橋利郎・成田健太郎

5本の柱（研究情報の紹介／研究状況の評価／学术交流会の企画・支援／研究資金の獲得・助成／研究成果の発信）を中心に、1年から2年かけてアクションプランを作成して進めていく。優先順位をつけて、実現可能な職掌から、柔軟性を持つて進める。人員配置も考え、一定の方向性を見出す。

#### ○小委員会C「会則第17条検討ワーキンググループ」

菅野智明（委員長）・下田章平・高橋佑太

「将来構想委員会内規」を確認。将来構想委員会として会則改正（案）を承認。総会資料（郵送）に会則改正（案・簡易版）を付し意見を聴取する（パブリックコメント）。来年1月に会則改正を発議する。

この意見交換の内容から、10月30日理事会に提出する将来構想委員会としての原案は、次のように取りまとめられました。

- ① 将来構想委員会の報告事項…小委員会A・B・C各委員長が別々に提案する
- ② 将来構想委員会の審議事項…会則改正について（発議者は委員長へ）

そして、小委員会A・B・C各委員長が、①報告事項の提案を9月中旬までに委員長宛提出していただき、それを委員全員でメール審議いたしました（9月15日、9月24日）。審議において異議が無かったため、原案として9月25日に理事会宛提出いたしました。

以上の「将来構想委員会」原案の作成と審議の経緯を、10月30日理事会において委員長が報告し、①報告事項については小委員会A・B・C各委員長が別々に提案を報告しました。②審議事項については、菅野智明小委員会C委員長より詳細な説明がなされ、継続審議として扱うことが承認されました。

（委員長 河内利治）

### ◆小委員会A「大会実施計画ワーキンググループ」報告

当該委員会では、書学書道史学研究の推進における、大会の実施に関する課題の検討と協議、分析、具体策の立案までを担当しています。本年度は、国内局と事務局が中心となり、オンライン形式での開催となりましたため、準備協議に加わりました。従前の大会参加者に比して、参加人数は大きく変わることなく無事に終えられたことは、一つの成果であるように思います。今後の展開としては、こうしたオンライン配信ツールを用いた研究会等が、会員間で積極的になされるような環境整備も必要になってくるだろうと考えております。

（委員長 笠嶋忠幸）

### ◆小委員会B「研究活動推進ワーキンググループ」報告

研究活動を推進するための具体案には、実現が比較的容易と考えられるものから、数年の歳月をかけてじっくり取り組むべきものまで、さまざまな案が寄せられました。具体案を集約した5本の柱を中心に、日本のみならず海外についても視野に入れないながら、目標達成のための行動計画を策定してゆきたいと思っております。

（委員長 富田 淳）

### ◆小委員会C「会則第17条検討ワーキンググループ」報告

本会の会則改正の具体的な内容は、昨年11月28日付の総会資料において、報告事項としてお知らせし、これに対する会員各位のご意見は、昨年末に集約いたしました。それを踏まえ、本件に関する理事会での審議を今月中に行い、来月初旬には理事会より会員各位へ会則改正について正式に発議する予定です。各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（委員長 菅野智明）

令和3年度本学会関係者科学研究費採択一覧

事務局

基礎研究 (S) 継続 (平成30) シナリチベト諸語の歴史的展開と言語類型理論 大西克也 (東京大学) ※代表: 池田巧 (京都大学) 286千円

基礎研究 (S) 継続 (平成30) 木簡等の研究資源オプティミタ化を通じた参加型研究スキーム確立による知の展開 中村寛 (東京大学) ※代表: 馬場基 (独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所) 283千円

基礎研究 (A) 継続 (令和元) 唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究― 板倉聖哲 (東京大学) ※代表: 井手誠之輔 (九州大学) 9,490千円

基礎研究 (A) 継続 (令和2) 『奈良朝勅定一切経』の総合的研究―漢文仏教テキストの資料的基盤の再構築に向けて― 赤尾栄慶 (国際仏教大学院大学) ※代表: 落合俊典 (国際仏教大学院大学) 1,158千円

基礎研究 (A) 継続 (令和2) コンテキストに応じた人文科学データバリエーション化に関する研究 中村寛 (東京大学) ※代表: 山家浩樹 (東京大学) 1,830千円

基礎研究 (A) 新規 漢文大蔵経の文献学的研究基盤の構築―『大正新脩大蔵経』底本・校本DBの活用と拡充― 中村寛 (東京大学) ※代表: 倉谷佳光 (公益財団法人東洋文庫) 9,620千円

基礎研究 (A) 新規 断片的史料情報の集積と歴史知識情報の相互参照体制の確立による新たな史料学構築研究 中村寛 (東京大学) ※代表: 西田友広 (東京大学) 10,010千円

基礎研究 (B) 継続 (平成30) 中国語における文法的意味の史的変遷とその要因についての総合的研究 大西克也 (東京大学) 3,510千円

基礎研究 (B) 継続 (令和元) 『儒教美術史』構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化― 尾川明徳 (筑波大学) ※代表: 水野裕史 (筑波大学) 3,380千円

基礎研究 (B) 継続 (令和元) 敦煌書儀:六朝尺牘文献の古代日本への受容実態の展開 小林比出代 (信州大学) ※代表: 西一夫 (信州大学) 3,900千円

基礎研究 (B) 継続 (令和元) 道教の洞天思想における聖地と巡礼の調査研究およびその東アジア思想文化史への影響 土屋昌明 (専修大学) 4,030千円

基礎研究 (B) 継続 (令和元) 戦国秦漢簡牘の総合的

研究―安大簡・清華簡・上博簡・北大簡を中心として― 福田哲之 (島根大学) ※代表: 湯浅邦弘 (大阪大学) 2,880千円

基礎研究 (B) 継続 (令和2) 美術鑑賞学習指導体系の構築に関する実践的研究 萱のり子 (東京学芸大学) ※代表: 松岡宏明 (大阪総合保育大学) 4,290千円

基礎研究 (B) 継続 (令和2) 中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究 代表: 富田淳 (独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館) 分担: 六人部克典 (独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館)、鍋島福子 (独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 3,250千円

基礎研究 (B) 新規 形象の記述・記録についての比較美術史的研究 板倉聖哲 (東京大学) ※代表: 秋山聰 (東京大学) 6,110千円

基礎研究 (B) 新規 『水墨画』と『彩色画』―1945年以降の東アジアにおける絵画表現に関する調査研究― 板倉聖哲 (東京大学) ※代表: 荒井経 (東京芸術大学) 5,590千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 『言語力』及び『表現力』を育成する書写教育カリキュラムの開発 青山浩之 (横浜国立大学) 780千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 対話を促す言語文化教材の開発―日本語の平仮名の場合― 代表: 藤本朋美 (南九州大学) 分担: 萱のり子 (東京学芸大学)、鈴木慶子 (長崎大学) 2,080千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 関西中国書画碑帖コレクション形成の研究―未公開資料の分析を中心として― 下田章平 (相模女子大学) 910千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 対機時における姿勢・執筆法と学習状況との関連に関する基礎研究 鈴木慶子 (長崎大学)、藤本朋美 (南九州大学) ※代表: 小野瀬雅人 (聖徳大学) 1,300千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 『三国英雄志伝』諸本の研究 中川諭 (立正大学) 820千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 近世中国の刑罰制度に関する総合的研究―軍制との関係を中心として― 中村寛 (東京大学) ※代表: 徳永洋介 (富山大学) 1,300千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 水運を利用した南北朝

から隋朝への石刻書法の伝播 篆書の篆誌蓋に注目して― 東賢司 (愛媛大学) 1,710千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 水書用筆を活用したICT教材及び授業開発と水書用筆を組み入れた書写指導の理論構築 樋口咲子 (千葉大学) 135千円

基礎研究 (C) 継続 (令和元) 日本の楷書筆順における行書系筆順の定着過程に関する研究 松本仁志 (広島大学) 83千円

基礎研究 (C) 継続 (令和2) 近代朝鮮における『書』の創出と展開―官僚出身書家の動向を中心に― 金貴粉 (大阪経済法科大学) 1,040千円

基礎研究 (C) 継続 (令和2) 書字基礎データ採取のための調査研究 鈴木慶子 (長崎大学) 1,158千円

基礎研究 (C) 継続 (令和2) 近世書論を基盤とする『日本書論史』の展開 永由徳夫 (群馬大学) 780千円

基礎研究 (C) 新規 在日コリアンハンセン病回復者・超高齢者コホートによる被差別経験と健康影響の解明 金貴粉 (津田塾大学) ※代表: 文鐘馨 (畿央大学) 1,690千円

基礎研究 (C) 新規 墓誌資料に基づく唐代地方社会の構造解明と石刻研究国際発信基盤の確立 氣質澤保規 (明治大学) 1,300千円

基礎研究 (C) 新規 東アジアにおける書教育に関わる教員養成学構築のための比較研究 草津祐介 (都留文科大学) ※代表: 加藤泰弘 (東京学芸大学) 1,040千円

基礎研究 (C) 新規 比較書学教育研究に基づく左利き者に有効な書写学習モデルの開発 小林比出代 (信州大学) 1,170千円

基礎研究 (C) 新規 『文字文化』としての手書き文字の総合的理解および学習方略の研究 清水文博 (山梨大学) 1,170千円

基礎研究 (C) 新規 論理的記述力を涵養するための教育方法確立に関する基礎研究 鈴木慶子 (長崎大学) ※代表: 林篤裕 (名古屋工業大学) 910千円

基礎研究 (C) 新規 『PaはKeboardよりも強し』なのか 鈴木慶子 (長崎大学) ※代表: 千々岩弘一 (鹿児島国際大学) 910千円

基礎研究 (C) 新規 中国と日本の書画における表装文化の総合的研究 代表: 鍋島福子 (独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館) 1,170千円

基礎研究 (C) 新規 古代エジプト神官文字写本の地域差を含めた言語記述とE-I-F検索プラットフォームの構築 中村寛 (東京大学) ※代表: 永井正勝 (東京大学) 1,300千円

若手研究 新規 書学教育の基礎概念としての字体・字形とその歴史的変遷 杉山勇人 (鎌倉女子大学短期大学部) 780千円

若手研究 新規 持続性と利活用性を考慮したデジタルアーカイブシステム構築手法の開発 中村寛 (東京大学) 1,060千円

若手研究 新規 日本書道史の「和様」に関する文献学的研究 柳田さやか (東京芸術大学) 1,170千円

挑戦的研究 (萌芽) 継続 (令和元) ポートフォリオ評価を用いた教職の高度化と教師教育者の養成に関する開発的研究 松本仁志 (広島大学) ※代表: 吉田成章 (広島大学) 1,520千円

挑戦的研究 (萌芽) 新規 古典書跡に注目した手指書字運動の解析とアーカイブ化 尾川明徳 (筑波大学) 3,510千円

研究活動スタート支援 新規 内藤湖南の東洋芸術論―画論・書論・印学・金石学等領域に対する学問的貢献― 石永峰 (関西大学) 1,420千円

特別研究員奨励費 継続 (令和2) 平仮名成立史の研究 中山陽介 (國學院大学) 800千円

\*本会会員の採択課題に限ったが、会員が研究分担者で、研究代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題に関しては、当該課題のもとに代表者と分担者を併記した。所属の後の数字は、令和3年度までの補助金の配分額。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業期間を本年度まで延長した課題については、「(一)」に準けていない。



談話室

性差から見る書子の課題

栗本 高行

美術系15大学を対象にした民間団体の調査によると、男性教授が8割に達し、女性の表現者が多い環境にそぐわない実情を表している。書教育の現場ではどうなのか気になったが、現状では有意な見解を形成するための材料がない。また、大学外の創作現場、例えば公募団体における女性作家の割合についても、客観的な資料があれば知りたいと思う。書壇に限ると、昔日と比べて会の役職に就く女性が多くなったと思われる。しかし、組織の長は男性が務めるのが依然主流であるとも観察できる。ところで、日本の書には、女手の過半が男性の名と紐づけられてきた伝統もあり、男女同権の視点から歴史を編む場合に困難がある。田宮文平の『現代かな概説』（平成25年）でも、扱われた女性は森田竹華だけだ。漢字の領域も含め、存在感を増す女性書家の仕事への眼差しが必要だと自戒する。

美術団体展を見に行きますか

高橋 遥

『美術の窓』という雑誌をご存知でしょうか。美術団体と呼ばれる方たちに聞く10人中8人は知っているような、作家

と親密な関係にある雑誌です。私は大東文化大学大学院を修了して、この美術の窓を作っている出版社へ入社しました。

仕事をしていて常々感じるのは、絵画や彫刻の人たちは書の団体のことをあまり知らず、書の人たちも同じように他分野の団体のことを知らないのではということ。実際私もこの仕事をするまで絵画の団体について日展以外は知りませんでした。弊誌では、1年半ほど前から誌面でお力を借りて書道関係の方にインタビューをしたり、展覧会紹介をしたり、作品を紹介したり。いつか、書家と他分野の作家がお互いを知るきっかけになればいいなあと思いつつ、日々展覧会や画廊を回っています。

書を読むことへの反省

鳥塚 篤広

長く続くコロナ禍の下、外出を控えることが続いています。しかし、在宅時間に架蔵の書や図録類を見る時間が出来たことは、一種の機会と捉えています。そして、書を書くだけでなく、読むことにどれだけ取り組んでいたかを反省することが増えました。日頃教壇に立っていても、書を読む、鑑賞することに対して十分踏み込めないこともあります。

この数年、前田多美子先生に安土桃山時代を中心とした手紙の読み方の御指導をいただいています。教えをいただく中で、

自身の手紙などの書を読む力、古典への教養が至らないことがよくわかり、書を読むことの難しさと重要性に改めて気付きました。書の本来のあり方を振り返り、指導者としての修養を積むためにも、かつての先人達のように書を書くこと、書を読み古典を学ぶことの両者とも大切にしたいと思います。

13年ぶりの書道パフォーマンス企画

平田 光彦

勤務先の武庫川女子大学書道の学生が、西宮市の広報番組からスポークン市との姉妹都市提携60周年を祝う発表を依頼された。京都府立亀岡高校在職時に平成16~20年にかけて発表した様々な書道パフォーマンスを基に作品を構想した。

当時の様子は平成16年の全国高等学校書道教育研究会で授業研究後に先生方に紹介し、HPでも毎年公開した。部員を集め、全校生徒の前で映像、音楽、ダンスと融合した新しい表現や仕掛けを凝らした発表をして、書道が注目される部活となる様子に反響を頂いた。今回は、筆曲部の演奏とともに万葉集の最終歌を今後の交流に寄せて大書した後、予め揮毫していた大書が現れる演出とした。龍安寺石庭や仮名の散らし書きなど日本の空間美を表現しつつ、日本の所作とHIP HOPを交えた動きや両市花により交流を象徴した。撮影にはドローンを使用し、令和4年1月にYouTubeでも配信される。

編集後記

◆全形拓を調べていると六舟・僧達受の動向が気になり六舟自撰の金石編年録を読んでいます。全形拓や貴重な碑帖拓本入手も興味深いところですが、石刻を見たら採拓せずにはられない採拓マニアだったようですね。(小川博章)

(小川博章)

◆勤務先の出光美術館では感染症拡大に伴い臨時休館しておりますが、再開の準備を進めております。感染症に対する不安はまだ拭きませんが、楽しみにお待ちください。詳細はウェブサイトを覗いてください。(金子 馨)

(金子 馨)

◆緊急事態宣言中の部活動禁止など、コーチを引き受けている女子大書道部も苦しい一年だった。なんとか仕上げた作品を、年末の学内イベントに展示する事ができ、胸を撫で下ろしている。来年度こそ、授業も部活も対面による温かみのある指導がしたい。(亀田絵里香)

(亀田絵里香)

◆11月、成田山書道美術館にて開催された河野隆先生の遺作展を拝見しました。作品を通して先生のお顔を見ているようで、学生の頃が懐かしく思い出されました。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。(野中直之)

(野中直之)

◆勤務先の大学で所蔵する拓本資料を中心にインスタグラムで紹介しています。拓本に関する簡単な内容ですが、興味のある方はぜひご覧ください。アカウントは「Taito Shoudo」です。フォローお願いします。(藤森大雅)

(藤森大雅)

◆会報の担当となり、4号目を迎えました。実は、これまで社内報・学報などになっさり目を通したことがなかったのですが、ようやく、編集に携わる方々の工夫と苦労がわかった気がいたします。皆さまにとってよい年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。(尾川明穂)

(尾川明穂)